# OSGS 最終レポート

## 半年間ありがとうございました！

### はじめに

皆さんこんにちは。令和 4 年度 OSGS プログラム前期メンバーの廣田優理です。

このプログラムもついに成果発表会まで全ての活動が終わってしまい、名残惜しさが残ります。今回のレポートでは、プログラムを通して得た気づきや振り返り、最終プレゼンテーションや成果発表会、埼玉県親善大使としての活動などについてご報告したいと思います。今後このプログラムへの参加を考えている方や埼玉県、国際に興味のある方の助けになれたら嬉しいです。

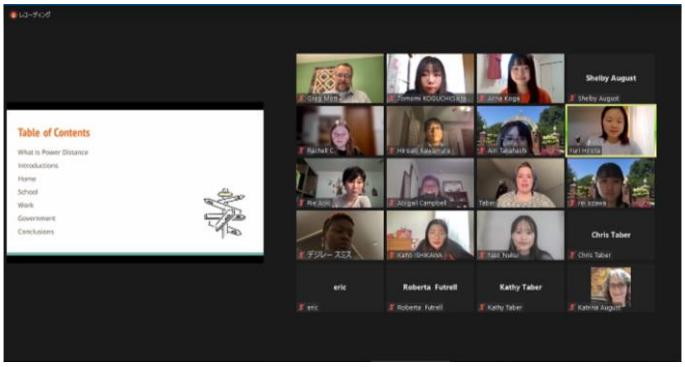
### 最終プレゼンテーションについて

12 月に今年度のプログラム内最後となるプレゼンテーションが行われました。私は今回のテーマであるホフステードの 6 次元モデルの中から Power Distance、権力格差について発表をする担当になっていたので、学校や職場、家庭内などにおいてどの程度権力の格差があるのかなどをペアと話し合い、日本とアメリカを比較するように交互に発表する構成で準備を進めました。当日は一番初めの発表者ということもあり、かなり緊張しましたが、何とか無事発表を終えることができました。

今までに OSGS プログラムに参加された方も見に来てくださったり、現地の学生さんとも質問し合ったりなどとても楽しい時間になりました。

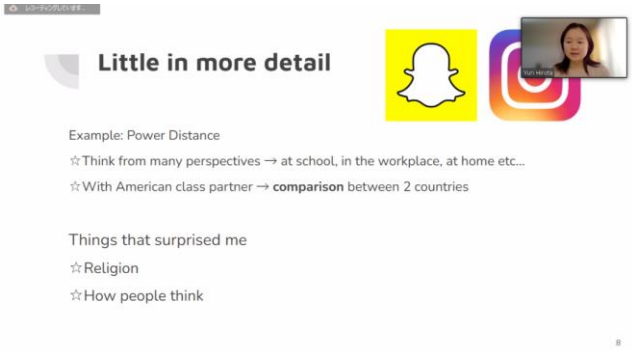
また、最初に自分の発表を終えてしまえたので、他のペアの発表をリラックスして聞くことができ、各々調べてきたホフステードの他のディメンションについて具体的な例と共に新しく色々知りました。ペアごとにスライドにも色があり、キャラクターが表れているようで視覚的にも面白かったです。

最終プレゼンテーションの様子→



# OSGS の集大成

## これまでの活動を振り返る





01 成果発表会

02 親善大使

03 振り返り


成果発表会後の修了式の様子

OSGS プログラム 3 期生としての活動を修了する賞状を頂きました。

緊張して臨んだ最初の委託式から半年がたち、みなさんやり切った笑顔です。今回出会ったメンバーの皆さんは普段の生活で関わることの少ない大学生や社会人の方でしたので考え方や意見の方向が異なってお互いに高め合える最高の仲間です。OSGS 生としての活動は終わってしまいましたが、今後も何かの機会にまたお会い出来たら嬉しいです。

## 成果発表会

2 月 12 日に成果発表会が行われました。この発表会は、フィンドレー大学の学生さんや先生、私たちのペアもご招待して OSGS プログラムの日本メンバーがプレゼンテーションを行う、今期最後のイベントでした。5 人でそれぞれプログラムについて、親善大使の活動についてなど 1 つのパワーポイントにまとめて発表を行いました。事前にみんなでリハーサルをしたり資料を共同編集したりするなど“埼玉親善大使”としての仕事でもありましたので、埼玉県の魅力を聞いて来てみたいという声を頂いたときは本当に嬉しく感じました。プレゼンテーションの後にあった質疑応答やディスカッションでは時間が足りなくなるくらい盛り上がりました。

## 親善大使活動

私たち 3 期生は藍染めと川越訪問を親善大使の活動として計画し、私は川越へ行きました。川越は、メインストリートはもちろん、脇道に入っても美味しいお店が沢山あったり、シンボルの時の鐘が見えたり、さらには氷川神社もあったりと、歴史、グルメ、景色まで楽しめる街でした。“埼玉親善大使”として行くと、何を紹介しようか、どんな写真を撮ろうかなどいつもとは違う新しい視点で楽しめましたし、こんなところにこんなお店が！などの発見も多々ありました。長く住んでいる場所でも改めて行ってみると実はこんなに素敵な場所だったのかと気づかされます。

## 全体の振り返り

英語の学習は 1 人でもできるけど実践する機会が少ないと感じて参加した今回のプログラムは、国際交流という点ではもちろんペアとの活動や授業を通して英語力や異文化理解力が向上したように思います。それだけではなく、英語力など以前に、海外の方と関わるには自国、地元について知る必要があると知り、埼玉県の魅力を再発見するいい機会になりました。今回得た言語以上のスキルを今後活用していきたいですし、お世話になった埼玉県に何らかの形で還元して行きたいと思います。

その場で考えてその場でやり取りをして、一緒に 1 つのものを作り上げていくという経験を経て、語学の知識だけでは立ち向かえない次のステージに進むことができたと感じています。英語ができても相手を理解しなければ十分な会話は成立しません。国の歴史や考え方、感覚の違いや宗教など自分の“当たり前”が当たり前ではない、常識が壊されるような体験でした。この経験があったからこそ、自信をもって発言したり協力したりできるようになりました。ご協力くださったみなさまには感謝しきれません。

このプログラムに参加するにあたって、募集情報を教えてくださった先生、応募エッセイの添削をしてくださった先生、全面的なサポートをしてくださった国際課のみなさま、毎週ビデオミーティングで一緒にテーマについて考えてくれたペアの Taber、一緒に授業をこなし、大使として活動し、成果発表までお世話になったメンバーの皆さん、そして楽しい授業をしてくださった Mott 先生、川村先生、本当にありがとうございます。